

【事業実績】

1 地域資料の活用と保存・継承に向けた周知活動

地域資料の魅力と重要性を周知し、地域全体で保存・継承を担う意識を醸成するため、講座と展示会を開催した。

(1) 文化財講座「守れ！身近なことからもの～文化財ってなんだろう？～」 2回実施 参加者数4名

会場：三島市郷土資料館 開催日：3/4(午前・午後各1回)

当初、小学校での出前講座開催を計画していたが、感染症の影響により実施が不可能となったため、中核館を会場として実施する形へ変更した。紙芝居形式の説明資料を使って文化財(地域資料)について説明し、考古資料のレプリカ、近世・近代の古文書、民具等を並べてそこからどのようなことがわかるのか解説した。

■参加者の声：「とてもわかりやすかった」「興味が深まった」等

(2) 出前講座「身近な文化財について知ろう」 3回実施 参加者数51名

会場：多呂公民館・中島公民館・大場公会堂 開催日：2/15・2/17・2/21

考古資料のレプリカと近世・近代史資料、民具の実物を持参し、地域資料の散逸・消滅の現状とその背景、地域資料から明らかになる地域の歴史を紹介し、近隣の資料所有者に関する情報提供を求めた。

■参加者の声：「大変おもしろかった」「他の場所でもぜひやってほしい」等

(3) 小学校ミニ展示会「学校にあるたからもの」 8日間実施

会場：市立徳倉小学校 会期：令和4年12/12～12/21 資料点数：32点

学校所在資料調査の成果をもととして、会場となる小学校所在の資料を展示し、そこからわかる学校・地域の歴史を児童・教職員へ紹介した。具体的には教科書・給食食器、行事写真、校長の手記による沿革史、不採用となった校章図案、地域住民よりの寄贈品等を展示し、会場校の過去の様子や地域住民との繋がり歴史を示した。また開催の様子は同校の「学校だより」を通じて保護者にも伝えられた。

■児童・教職員の声：「これが学校にあったの？」「すごい」「友達と一緒に興味深そうにみる子供たちの姿があった」等



地域資料の実例紹介



中島公民館での開催の様



展示会場の様子

2 地域資料の調査・保存・活用の担い手養成

地域資料の調査・保存・活用の担い手を確保、養成するため、ボランティア新規加入希望者を募集し、養成講座を開講した。また現在在籍しているボランティア会員向けにスキルアップ講座を開催し、知識・技術の向上を図った。

(1) ボランティア養成講座 計4日8コマ 受講者 28名(講座参加者数延べ96名)

地域資料の保存・継承に向けた取り組みや、継承と活用の関係性についての理解を深め、ボランティア活動に必要な基礎的知識・技術を習得することを目標とする講座を開催した。

日程	講座内容	外部講師	参加者
11/20	①オリエンテーション ②学校資料から地域を知ろう！		27名
12/4	③民具から地域を知る ④民具の調書作成にチャレンジ！	外立ますみ氏(トーリ工房)	23名
1/21	⑤地域資料をいかしたまちづくり ⑥郷土教室を体験！	橋本敬之氏(伊豆学研究会) ボランティア会員	24名
2/18	⑦古文書の整理にチャレンジ！ ⑧石造物の調査にチャレンジ！		22名

■ボランティア本登録申請者：22名(受講者28名中)

■受講者の反応：①「保存、継承の大切さを痛感した」「資料保存のための環境作り、注意点がよく分かってよかった」/②「おもしろかった」「興味をもった」/③④「興味がわいた」「とても充実した講座だった」「難しいと思ったが、興味深い」「もっと数をこなして一人の力で作成したい」/⑤「はじめは文化財を「お金にする」に違和感があったが、文化財を守るためには必要であることを理解した」「文化財保存のための発信の大切さを知ることが

できた」／⑥「皆さん楽しそうにされていていいなと思った」「具体的に何を行うかがよくわかって、今後の参考になった」／⑦「難しいが楽しかった」「解読できるようになりたい」「学びが多かった」／⑧「非常に楽しかった」「町歩きもできて楽しそう」「今まで通り過ぎるだけだった石に興味をもつことができた」

(2) ボランティア スキルアップ講座(ボランティア現会員対象) 参加者数延べ 57 名

①古文書の整理・調査作業 4回実施 参加者数延べ 33 名

開催日:10/12・11/9・1/11・2/8 指導者:NPO 法人伊豆学研究会

行政関係資料、地図、文化関係資料(和歌等)、宗教関係資料など、さまざまな分野にわたる近世・近代文書の封筒作成法を習得した。細かい疑問点をひとつずつ解消することにより、より多くの古文書整理・調査への対応が可能になった。

②古文書の剥離作業 1回実施 参加者:9名

開催日:2/22 指導者:師岡恒夫氏(春鳳堂)・師岡恒平氏(同前)

屏風の補強に利用された古文書の剥離作業を行った。木枠を解体して表装を取り除き、補強紙を層ごとに分けて古文書を一点ずつ剥がし、古文書に付着したススを除くまでの工程を習得できた。

③民具の調書作成にチャレンジ! 1回実施 参加者:15名

開催日:3/11

12/4 に開催したボランティア養成講座(講師:外立ますみ氏)の講座内容をもとにして、中核館職員が講師となり、現会員に民具の調書作成方法を伝達した。

■参加者の声:「剥がす作業がおもしろかったので、忘れないうちにぜひ続きをやりたい」「貴重な資料が出てきておもしろい」等



民具の調書作成



古文書の封筒作成



古文書の剥離作業

3 学校・民間所在資料の把握

日常的・非日常的契機による散逸・消滅を防ぐため、学校や個人宅、公民館等に所在する地域資料の調査・把握を進め、その成果を分散して保管し、協働で継承していく体制を構築した。

(1) 小学校所在資料の把握 調査件数:市内小学校7校 調査点数総計:89点
将来悉皆調査を行うことを前提として、まず点数の限られる美術資料に絞って調査を実施した。7校でリスト作成・撮影を終え、成果物を学校・中核館で共有する体制を整えた。また美術資料の制作者やその遺族から作品の背景、寄贈・設置の経緯を取材し、在籍児童らにその魅力を伝えるパンフレットを作成した。

(2) 民間所在資料の把握 調査対象:個人宅3件 調査点数総計:355点
情報提供のあった個人宅3件で調査を実施した。1件は調査を完了し、1件は封筒の仮入れと点数の確認を終え、リスト作成・撮影を半数程度まで進めた。残る1件は所蔵量が1000点を超えるために今後定期的に調査に入る約束を交わした。いずれも『静岡県史』編纂時のリストにない資料群であり、調査を終了した家には防虫剤・中性紙箱等の保管用器財を提供し、定期的に連絡をとりあう旨の覚書を取り交わした。

(3) 資料リストの分散保管(災害対策)

上記(1)(2)の成果を調査先・中核館で共有するほか、静岡県博物館協会(事務局:静岡県立美術館)に依頼して保管し、災害時の備えとした(今後定期的なデータ更新を予定)。



学校所在資料調査の様子



民間所在資料整理の様子